

湧水の森での、「自然と音の空間を散歩」

運営委員会会長 角本 等

天王森泉公園は、相模野台地と呼ばれる台地を縁取る斜面緑地に位置します。天王森泉館の奥の谷戸を、「湧水の森」と呼んでいます。ここには、竹林、きれいな湧き水、わさび田、せせらぎ、生体池、野の花苑、大きな玉石で造られた石垣があります。私は、このエリアがとても好きです。ここは、人間と自然が調和している空間があると思います。湧水の森に目を向けると、まず、空に向かってまっすぐに伸びる竹の林が目に入ります。竹は中ほどから上にやわらかな笹を茂らせとても美しく見えます。竹林の中で周りを見ると、竹と竹の間から太陽の光が差し込んでとても神秘的なものを感じます。目を閉じると、笹と笹が触れ合う音がして、少し風が吹くと、ザザザ～、ザザザ～と聞こえます。竹に耳を当てると、竹の枝が空気を切っているような小さくゴ～～という音が聞こえます。竹林の脇からきれいな水が湧いて、小さな流れになります。その湧き水を使ったわさび田は、横浜では数少ない貴重なわさび田です。現在は、わさびの葉を害虫から守るための作業を行っています。流れに沿って下ると、せせらぎが目にはいります。私は、せせらぎをなんとなく見るのが好きです。耳を澄ますと、せせらぎの音が聞こえます。いつまで聞いていても飽きません。6月の初め頃は、ここにホタルが飛び交います。ホタル鑑賞会では、たくさんの目を楽しませました。セミの鳴き声が、耳に入ってきました。ツクツクボウシ・ツクツクボウシと鳴いている「ツクツクボウシ」。カナカナカナ・カナカナカナと鳴く「ヒグラシ」。私は、ヒグラシの鳴き声を聞くと私に何かやさしく話しかけているような気がして心が安らぎます。いつまでも聞いていたい心境です。環境省の「残したい日本の音風景100選」にもあるように、この天王森泉公園の自然と音をお楽しみ頂ければ幸いです。

事務局長より一言

夏の暑さもだいぶ和らぎ、過ごしやすいい日が増えてきました。樹々にはたくさんの実がついてきており、紅葉も始まります。夏から秋、そして冬に向けた公園の景色の変化をお楽しみください。3密を回避できる身近なオープンスペースとして公園は注目され、来園者が増えています。新型コロナ対策をしっかりとしながらイベントも開催し、多様な楽しみ方ができる公園にしていきたいと思います。是非お立ち寄りください。

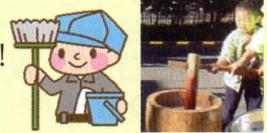
By 近藤

館行事ご案内

10・11・12月

- *10月16日(土) 稲刈り体験
参加希望申し込み
- *10月24日(日) 新蕎麦まつり
新蕎麦でおもてなし
- *11月14日(日) 天王森まつり
開園記念・焼き芋ほか
- *12月5日(日) 天王森もちつき
公園耕作米でおもてなし
- *12月26日(日) 館すす払い

味覚シーズンヘダッシュ！コロナに勝！
すす払って良い年を迎えよう！



天王森の自然案内

9月中旬野の花苑の白いヒガンバナにモンキアゲハが吸蜜に来ていました。秋はクク科の花が次々と咲き始めます。それらの花にチョウ、コガネムシ、ハチやアブの仲間が蜜を求めてやってきます。見晴らしの丘の草の上を歩くとはショウリョウバッタ、オンブバッタ、クビキリギス、ホシササキリやヒナバッタなどが飛び出していきますよ。公園前の田んぼではアオサギ、チュウサギなどのサギ類がイナゴを食べに来ています。杭の先にはモズが止まってキチキチキチキチと高鳴きモズもイナゴを求めてやって来ます。そして繁殖地から越冬地へ渡る途中稀にノビタキも観られます。

地味ですが公園で観られるカマキリの仲間ニホンアマガエル、ジョロウグモ、ニホンカナヘビなどがいつまで観られるかという観察です。これらの生きものは寒くなって食べる生き物がいなくなると死んでしまったり冬眠することになります。 By 倉川



野の花苑だより

秋は樹木の紅葉が話題になりますが野草も紅葉します。

冬を向かえる前に、来年の春の準備をして黄色や赤色に葉の色を変える種類があります。オカトラノオは、花が終わった後も茎や葉は枯れないでいて、寒くなるときれいな赤色になります。でも、本当にきれいな色は3日位です。何処でも見られるドクダミも気温にもよりますが葉が赤色になります。ミソハギ、ミヤマオダマキは黄色になります。下よりも上を見上げて



By 井上

くわくわ森の再生

くわくわ森の南側は一昨年前まではヒノキ林でした。樹齢100年くらいのヒノキが立ち並び、暗い場所でした。台風被害で数本倒れてから近隣の住宅に被害が及ばぬようにと、横浜市がほとんどのヒノキを切り倒しました。明るい見通しの良い広場ができて、昔からあった山桜の花が綺麗に見えるようになりました。明るくなると、今まで日が当らず成長できなかった草が元気になりどんどん伸びて増え、草刈りの回数が2倍か3倍になりそうです。けれども、ヒノキの切り株に腰を下ろし一休みできる場所や、子供達が遊べる原っぱとして手を入れていきたいと考えています。

保安全管理推進グループ 山本 T



来園者訪問録

古民家ライブに来園されていたご夫婦にお聞きしました。

～二胡の音色と古民家の風景がマッチしてとても良かった。今回の、屋外での観覧も良かった。ただ、少し暑かったのが残念でした。

～二胡を初めて聴きました。ゆったりとした音色も良かったが、激しい音色も躍動感があり、とても良かったと思います。

～予約なしで来ましたが、来てよかった。今度は、別のイベントでも来園してみようと思います。

事務局より

館事業 7～9月

- *7月7日(水) 七夕飾り・昇焼き
- *7月25日(日) 水辺で遊ぼう生き物観察会：中止
- *8月8日(日) 夜の虫ナイトトラップ：延期
- *9月5日(日) 夜の虫ナイトトラップ
- *9月20日(祝月) 古民家ライブ
入場制限し実施



*9月26日(日) そば打ち体験：失敗無し・オイシクッタ

☆コロナ禍・天候不順等により中止事業もあり残念でした。体験事業へのご参加有難うございました。

編集室より

天王森泉公園では天王森まつり(11/14)で写真展を開催します。一般公募をしておりますので興味のある方は写真を事務局までご持参下さい。

申込受付は10月1日～11月7日。

応募写真は天王森泉公園周辺のものに限ります。写真展は泉館2Fギャラリーにて行います。沢山の応募をお待ちしております。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

By 武智



ホタル育成だより

～ホタルの多く飛び違ひたる夏の森を再び～

天王森の初夏の風物詩であるホタルが年々減少しています。公園では今、エサであるカワニナという巻貝の放流や、生育地であるせせらぎの環境整備を行っています。ホタル育成は、その地形や水質、生態系などが大きく影響するため、決して簡単なことではありません。自然と対話し先人から受け継いできたものを大切にしながら、たくさんのホタルが飛び交う森の復活に取り組んでいきたいと思っています。

by 清本

カワニナの放流と
せせらぎの環境整備



ワサビ田だより

この公園にはワサビ田がある。前の持ち主が業者に管理してもらったと聞いたことがある。ここにはホタルもいて、ホタルの餌のカワニナ(巻貝)がワサビの擦り下ろす部分を、チョウの幼虫が葉の部分を食べってしまう。だからワサビの養殖場に、ホタルがたくさんいる場所は無いらしい。一緒に暮らしてもらうには工夫が必要だ。ワサビチームは苗にドーム型のネットを掛け、葉を守る案がまとまった。

By 山本 G



天王森泉公園のホームページ
<https://www.tennoumori.net>



当公園
QRコード

天王森泉館利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：毎月第2・4火曜日(祝日は翌日)

年末・年始(12月29日～1月3日)

問合せ先：天王森泉公園事務局 045-804-5133

館内施設の利用：利用日の2ヶ月前より申込受付